

# 国語科

## 【研究主題】

豊かな言葉で思いや考えを伝え合う生徒の育成

## 【研究副主題】

生徒一人一人が自己の成長を実感する言葉の学び

## 公開授業

学級：3年4組 授業者：平山 和佳



## 私たちが励ます言葉 ～今の思いを「論語」で語ろう～

二千五百年前の中国に生きた孔子とその弟子たちの言葉を記した「論語」は、長年、中学2・3年生の教科書に取り上げられています。その一方で、令和3年度以降、長崎県公立高校入試問題の出題範囲から漢詩・漢文が姿を消すなど、それらの言葉と親しむ機会が減少しつつあります。近年は、孔子の言葉を、時代的、空間的、そして心理的に自分たちから遠いものだと感じる生徒も多くいます。しかし、儒教の祖である孔子の言葉が、私たちの理想とする行動や考え方と通じていることを実感した瞬間に、それらの言葉は色を帯び、躍動感を持って生徒の心に迫っていくに違いありません。

そこで、“**古典を引用しながら自己の思いを伝え合う学習**”を提案します。光村図書の教科書に掲載されている4つの教材を用い、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」を組み合わせた総合単元学習を構想しました。単元の第一次で、詩「世界はうつくしいと」（長田弘）、随筆「温かいスープ」（今道友信）、論説「それでも、言葉を」（鷲田清一）の3教材を読解し、言葉の持つ力やその温かさを再確認できるようにします。第二次では、古典「論語」から言葉を探して、「孔子はどのような思いでその言葉を語ったのか」「なぜその言葉が今の自分の心に残るのか」を考えながら、自分の思いを語る言語活動へと展開します。言葉には人の思いが込められていること、そしてその言葉への共感や問い直しによって、人と人とのつながりを生むことを実感させ、豊かな言葉で思いや考えを伝え合う生徒の育成を目指します。

当日は、探し出した「論語」の言葉が、今の自分とどう重なるかを級友と語り合う場面を公開します。その言葉に込めた孔子の思いを味わうとともに、自分の思いや経験と重ねることで、時代を超えて通ずる言葉の価値を感得する生徒の姿をご覧ください。

## メタ認知との関わり

これまでに生徒は、〈話すこと・聞くこと〉の言語活動において、各単元で設定した「3段階の目標」を踏まえ、自分の学習を見通したり、調整したりして、言葉の力を高めてきました。本時では、それらの過程で獲得した〈話すこと・聞くこと〉についてのメタ認知的知識を基に、聞き手の反応を確かめながら、適切な言葉を選んだり、具体的な経験を根拠として示したりするなど、自分の思いを工夫して分かりやすく説明できるようにします。

詳細はこちら

長崎大学教育学部附属中学校研究発表会

令和8年6月26日（金） 9:20 ～ 16:10

